



「多久から発信！SDGs 41」

「人が人を思う心」

西溪校の生徒会で会長を務めた令和6年「人と人を繋ぐ活動」をたくさん行ってきました。その中で特に力を入れたのが募金活動です。

生徒会長になってすぐ、能登半島地震で被災された人への募金活動に取り組みました。元日に発生した能登半島地震で、たくさんの人々が大きな被害にあわれたとニュースで知りました。たくさん人のボランティアの人々が現地で活躍する中で、私達西溪会でも何かできることはないかと考えました。募金活動なら佐賀からでも協力できると思い、約2週間活動を行いました。始めた当初は、そんなに多くの金額は期待できないかもしれないと思っていました。しかし、西溪校みんなの思いが集まり、予想をはるかに超える額が集まりました。10月には西溪会が、5月から育てたさつま芋を販売し、その売り上げ額を赤い羽根募金に寄付しました。西溪校一人一人の児童生徒や先生、保護者が相手のことを思う心がこの金額に繋がったと思います。

西溪校の児童・生徒の皆さんが相手のことを思い行動すること。その思いに感謝してくれる人があること。遠く離れていても、人と人の思いを繋ぐことができる素晴らしいことを実感することが出来ました。

これから高校生活が始まりますが、この一年間で感じたことをいろんな人に伝えていきたいです。そして今年の西溪会でも、人が人を思うことの素晴らしいさを伝えてほしいです。

東原岸舎西溪校卒業生

梶原 宏聖



連載

多久市の指定文化財(1)

「若宮八幡宮神殿」〔佐賀県重要文化財〕

多久町一八〇二番地

若宮八幡宮(現多久八幡神社)は、江戸時代の多久の地誌『丹波宮誌』(深江順房著)に、正治中(二一九九-二〇二)多久宗直(前多久家初代)の創建と記します。

鎌倉の鶴岡八幡宮若宮八幡を勧請と伝え、祭神に応神天皇・仁徳天皇・神功皇后・比売大神の四柱を祭祀。また同書の三理府君(龍造寺長信…後多久家祖)ヨリ御供米現米二石五斗(略)などの記述から、多久地域が後多久家の治世に移行した後も同社は大切に維

持された事がうかがえます。建物内に残る棟札には元龜三年(一五七二)龍造寺長信の神殿再興以来、複数回の修理記録が記されますが、神殿の基本構造や彫刻に安土桃山時代の特徴を留めており、当時の建築を知るうえで貴重であることから、昭和三十三年に県重要文化財の指定を受けました。

毎年十月十九日に秋季例大祭が行われています。

(教育振興課)



▶若宮八幡宮神殿



▶秋季例大祭 御神輿の神幸行事

市民文芸

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

- ◆ 九十代の身内がたくさん居る人と  
同席しおり嬉しいような  
尾形 節子
- ◆ 真夜中に救急車サイレン 聞こえさて  
離れ住む吾子 ふと思いおり  
川浪 信子
- ◆ 後悔はしたくないんだ 人生は  
一度きりだと 胸に刻んで  
野崎 隆幸
- ◆ 徳連の山ふところにいだから  
春待つ吾に 陽差し暖か  
梶原恵美子
- ◆ み佛に抱かれし西のお浄土に  
旅立ちし娘の 安寧祈る  
浦野 嘉恵

俳句 《大石ひろ女選》

- ◆ 白梅の枝みな空を突きぬたる  
本村 則子
- ◆ 麗かや沖行く船の遠汽笛  
富樫 明美
- ◆ 春愁や 地図より消えし 生家の地  
武富 律子
- ◆ 煮凝の 飴色深くなりけり  
おおやはな
- ◆ 梅の香に 水の匂ひの 透きとほる  
大石ひろ女

川柳 《多久川柳会 互選》

- ◆ 笑い声 いつも聞こえる ケアハウス  
松下 修
- ◆ ばったりと 会って 笑うが 名が出ない  
井上 東子
- ◆ 別れても 慕う子心 親心  
小副川ヨシエ
- ◆ 笑い声 絶えない 家族 四世代  
田中 正春
- ◆ 春の風 いまだに 開かぬ ジャムの蓋  
大谷 和